

# 大田区自立支援協議会 第4回相談支援部会要旨

文責：与儀委員、事務局一部修正

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第4回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和7年12月10日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室				
(4) 出席した委員、事務局等	委員 <span style="float: right;">&lt;敬称略&gt;</span>				
	名倉 壮郎	古怒田 幸子	後藤 貴久	長谷川 幸恵	深堀 希
	大窪 恒	大類 信裕	草野 牧子	呉 ルミ	清野 弘子
	長瀬 麗奈	長濱 久美子	西山 由佳莉	山本 利寛	与儀 ひとみ
	渡邊 加奈子				
	オブザーバー：徳留 敦子、松井 知子、野呂 美之、七尾 尚之、岩淵 清美、小柳 正人、森田 好美				
	事務局：小林 善紀、矢島 千恵、酒井 史穂、岡村 空奈				
欠席者：小嶋 愛斗、筒井 寛孝、二階堂 直子、柳下 大、村田 亮、山口 加代子、渡部 尚					
(5) 内容・要旨	<p><b>1 連絡確認事項</b></p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会は名倉部会長、小林係長。書記は与儀委員と確認した。</p> <p>(2) 資料の確認</p> <p>(3) 意見だしカードの確認 意見だしカードの内容を確認した。</p> <p>(4) 協議会だより・運営会議の報告 協議会だより、さぼーとぴあニュースを参考資料として確認した。</p> <p><b>2 本日の検討課題</b></p> <p>(1) 事例報告から見えてきた課題の整理 3つの事例からみえてきた個別課題を、ワークシート(①事例からみえてきた課題の整理)を用いて、グループワークを行い、「連携・情報共有」、「家族支援」、「進路選択・支援の選択」の3つのカテゴリーに整理した。</p> <p><b>【A グループ】</b></p> <p>● 連携・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育と福祉の連携が難しい。個人情報保護が絡んでいるのではないかという意見が挙がった。</li> <li>・ 障がい児の時期にセルフプランだった場合や、福祉サービスを利用していないことで、成人後サービスを利用する際に、成育歴など本人に関する過去の情報が少ない。</li> </ul>				

- 学校で書いている、就学支援シートや、学校生活支援シート等を活用してほしい。

● 家族支援

- 本人以外の家族支援は無償になるため、限界がある。
- どこまで関わっていけばよいかの線引きが難しい。

● 進路選択・支援の選択

- 学校では卒業後5年間資料を保存している。情報提供は可能だが、本人を知っている先生がいない場合は、紙面上だけの情報となってしまう。

【B グループ】

● 連携・情報共有

- 事態が大変になってからの相談が多いため、事前に情報をキャッチできるとシームレスな支援ができるのではないかと。

● 家族支援

- 地域庁舎、地域包括支援センターレベルで気軽に相談できる場があるといい。

● 進路選択・支援の選択

- 高校2年生で進路説明会があるが、もう少し早い段階で選択肢を示せるといい。
- 本人や家族が説明会に出向くのが難しいようであれば、身近に感じる、話を聞いてみようと思えるような、活用できるツールがあるといい(漫画など)。

【C グループ】

● 連携・情報共有

- 卒業後のイメージができておらず、卒業後に入った施設で要望が高くなるケースが多い。
- 児童の時期に利用するサービスにより、成人になりサービスを利用する際の過去の情報量が違ってくる。

● 家族支援

- 本人と保護者の意向のギャップをどうやって埋めていくか。
- 家族支援が必要なケースが増えており、1つの機関だけで担っていくのは難しい。
- 家族支援を行わないと、全体的な根本の解決にはならない。

● 進路選択・支援の選択

- 障がい児から障がい者につなぐ際に伴走者が必要だが、ライフステージごとに誰が行うのかという課題がある。

【D グループ】

- 連携・情報共有
  - ・児童の相談支援事業所が少ない。
  - ・大田区は児童のセルフプラン率が7割を超えていることが課題。
- 家族支援
  - ・保護者が学校に頼りきりになってしまう。
  - ・保護者と学校間での本人課題の認識にギャップがある。
  - ・保護者が、障がい児から障がい者への切り替わり時の学校での説明会などに参加できず、情報が伝わらない。
- 進路選択・支援の選択
  - ・不登校など、障害福祉サービスの利用がない場合は、どこに相談すればいいかわからず、基幹相談支援センターであるサポートセンターへ一点集中になってしまう。

## (2) 個別支援会議から抽出された地域課題の整理

個別支援会議から抽出された地域課題を、ワークシート(②地域課題の検討【児から者への移行という視点で】)を用いて、グループワークを行い、「送り出す側(児)の課題」「受取り側(者)の課題」に分類する。併せて、課題を解決するために「こうなったらいいな」という視点でアイデア出しを行う。

### 【A グループ】

- 送り出す側(児)の課題
  - ・個人情報保護の問題がある。学校で作成する資料も、保護者の同意がなければ、事業所などに渡すことができない。
  - ・受取り側が欲しい情報が事前に分かるといい。
- 受取り側(者)の課題
  - ・学校卒業後、福祉の通所施設に来ると入所者から、プログラムとして学校でしてきたこと(文字の練習など)がやりたいと求められることが多い。
  - ・障がい児の段階から福祉サービスを利用していないと、成人後にサービスを利用する時の成育歴や過去の情報量が少ない。
- こうなったらいいな
  - ・システムなどにより情報の見える化ができるといい。
  - ・児童相談所や子ども家庭センター、地域福祉課がハードル低く連携できたらいい。

### 【B グループ】

- 送り出す側(児)の課題
  - ・福祉サービスから離れても、気軽に相談できる窓口があったらいい。
- 受取り側(者)の課題

- 保護者の本人の状態像の理解が学校や支援者とずれていることがあり、本人の進路選択にうまくつながらない。
- 訪問看護の利用があると、本人の障害福祉サービスの利用がなくなっても、後に支援が必要になった際にも、連携がとりやすい。
- こうなったらいいな
- 電話ではなく気軽に相談できるツール(チャットなど)があるといい。

#### 【C グループ】

- 送り出す側(児)の課題
  - 学校しか知らない情報もあるため、情報共有が必要。
- 受取り側(者)の課題
  - 大田区には、基幹相談支援センターが1つしかないため、地域福祉課単位であるといい。
  - 相談支援事業所がどこまで認知されているのか。
- こうなったらいいな
  - 中立的な立ち位置の情報交換の場があったらいい。
  - 幼少期を知る保健師からの情報提供があったらいい。

#### 【D グループ】

- 送り出す側(児)の課題
  - ある特別支援学校と地域福祉課は年に1回情報共有の場がある。そのようなシステムがあるといい。
  - セルフプランの方には、計画相談支援の必要性の理解が難しい。
  - 事業所が全体的に足りていない。
- 受取り側(者)の課題
  - 保護者が作成したセルフプランと、相談支援事業所が作ったプランにギャップがある。
- こうなったらいいな
  - 希望者が相談支援事業所を使えるように、行政が割り振りを行えたらいい。
  - 事業所を増やしていけたらいい。

### 3 今回決定事項及び次回検討事項の確認

- 12月24日(水)の作業部会で中間報告に向けてまとめていく。

#### 次回日程

【作業部会】令和7年12月24日(水)13時30分～15時30分

障がい者総合サポートセンター3階集会室

【専門部会】令和7年2月4日(水)9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター5階多目的室